

**製品名: YAP (リン酸化 Ser127) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05637**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	65kDa

**抗原情報**

遺伝子名	YAP1
別名	YAP1; YAP65; Yorkie homolog; 65 kDa Yes-associated protein; YAP65
遺伝子 ID	10413.0
SwissProt ID	P46937
免疫原	抗血清は、Ser127 のリン酸化部位周辺のヒト YAP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 93-142

**背景**

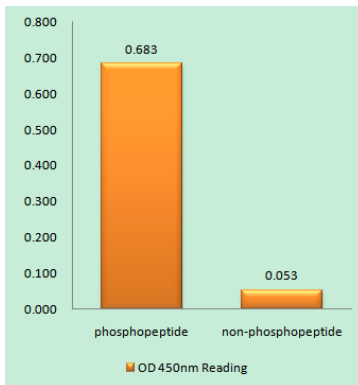
この遺伝子は、発生、成長、修復、および恒常性維持に関与する Hippo シグナル伝達経路の下流核エフェクターをコードしている

す。この遺伝子は、このシグナル伝達経路の転写調節因子として、複数の癌の発生および進行に関与することが知られており、癌治療の潜在的な標的となる可能性があります。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2013年8月],PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化されます。類似性: 1つの WW ドメインを含みます。サブユニット: YES キナーゼの SH3 ドメインに結合します。WBP1 および WBP2 に結合します。in vitro において、WW1 ドメインを介して、PPSY モチーフを含む ENAH の神経アイソフォームに結合します。、

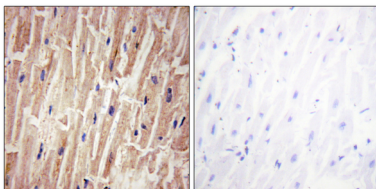
## 研究分野

シグナル伝達

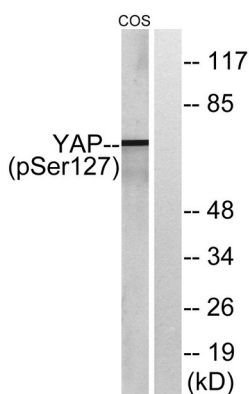
## 画像データ



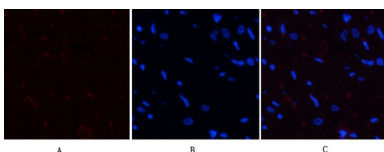
YAP (リン酸化 Ser127) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



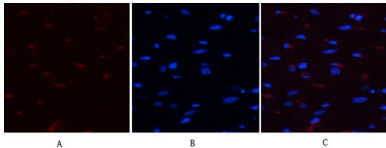
YAP (リン酸化 Ser127) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



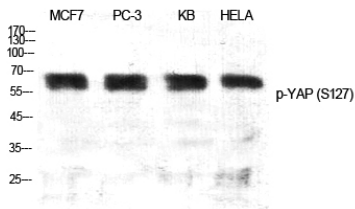
HU 2nM で 24 時間処理した COS7 細胞のライセートを YAP (リン酸化 Ser127) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



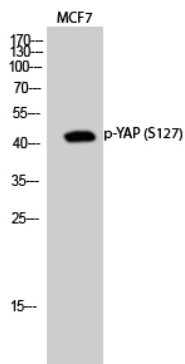
ラット心臓組織の免疫蛍光染色。1, YAP (リン酸化 Ser127) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット心臓組織の免疫蛍光染色。1, YAP (リン酸化 Ser127) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



1: 500 に希釈した Phospho-YAP (S127) ポリクローナル抗体を用いた各種細胞のウエスタンブロット解析。



1: 500 に希釈した Phospho-YAP (S127) ポリクローナル抗体を用いた MCF7 細胞のウエスタンブロット解析。